



# 大阪の樹木 2

— 社寺林の木 —  
ツバキ科・ヤブコウジ科



—目 次—

はじめに .....	1
同定 .....	1
常緑樹を見分けるために .....	1
ツバキ科の検索表 .....	2
ツバキ科の果実のつき方 .....	3
ツバキ科の葉 .....	4
ツバキ科の植物 .....	5
日本産ツバキ科の特徴 .....	5
ツバキ・サザンカと園芸種 .....	5
ツバキ .....	6
サザンカ .....	6
チャ .....	6
サカキ .....	8
ヒサカキ .....	8
ハマヒサカキ .....	8
モッコク .....	9
ナツツバキ .....	9
ツバキ科とヤブコウジ科の形質一覧 .....	10
ヤブコウジ科の検索表 .....	12
ヤブコウジ科の果実のつき方 .....	13
ヤブコウジ科の葉 .....	14
ヤブコウジ科の植物 .....	15
日本産ヤブコウジ科の特徴 .....	15
BOX もっと詳しく調べるには .....	15
イズセンリョウ .....	16
タイムンタチバナ .....	16
ヤブコウジ .....	17
ツルコウジ .....	17
マンリョウ .....	18
カラタチバナ .....	19
鋸歯と腺体のいろいろ .....	20

## はじめに

ミニガイドの樹木シリーズは、「大阪の街路樹」,「長居公園の樹木ーブナ科」,「大阪の樹木ーモチノキ科・ニレ科」の3種類がすでに発行されています。今回は、「大阪の樹木」の続編として、ツバキ科とヤブコウジ科をとりあげました。社寺林に多い種類だけでなく、大阪府に分布する種類全体を紹介しているので、野山での樹木観察にも役立てていただけます。

### ■<sup>どうてい</sup>同定 (名前を調べる)

「生物の種名を確定する」ことを同定と呼びます。同定には、花や果実の構造がとても重要です。調べたい植物を見つけたら、花と果実の両方を採集する努力をしましょう。採集のために現地へ何度も足を運ぶ覚悟も必要です。なぜなら、花や果実のついた枝から名前を調べるのと、葉だけの枝から名前を調べるのとでは、苦勞の仕方がずいぶん違うからです。

形質を順番にチェックして種名を絞り込んでゆく作業を検索と呼び、そのためのマニュアルが**検索表**です。番号に従って二択(あるいは三択)をしながら進んでゆくことで、種名にたどり着く仕組みになっています。本来なら、葉と果実の両方の形質を合一して作成するもので、それによって確実性が高まります。しかし、いつも果実が手にはいるとは限りません。この本では、不完全ですが、葉だけによる検索表と果実だけによる検索表を作成してみました。

### ■常緑樹を見分けるために

常緑樹の葉はどれもよく似ていて、見分けるのに苦勞します。葉だけで同定するにはかなりの経験を積むことが必要なので、いきなり葉による検索はおすすめできません。最初は、花や果実のついた枝をもとに、同定の経験を積むことが大切です。次に、花や果実の特徴によって同定した種を、葉で再同定してみてください。こうして経験を積んでゆけば、最初は難解に思えた検索表も、いずれは使いこなすことができると思います。

葉を観察するポイントは、葉の持つ形質を丹念にみていくことです。葉の形はもちろんですが、葉のつき方(互生、<sup>ごせい</sup>対生など)、葉縁の状態(鋸歯<sup>きょし</sup>の有無やその形態、縁毛や腺点の有無)、側脈対の数、側脈のパターン(分岐の有無や先端が葉縁に達するか否かなど)、網状脈のパターン(密度、はしご状か網状かなど)、葉面の毛の有無、腺点・腺体や明点・黒点の有無、葉の表と裏における側脈・網状脈・毛・腺点・腺体の形態、葉柄形態(毛の有無、葉身と葉柄のプロポーシオンなど)には、十分な注意を払いましょう。

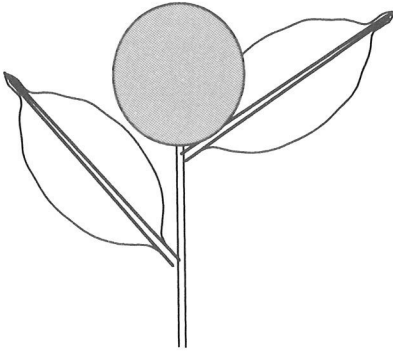
## ツバキ科の検索表 (大阪府産のものに、サザンカを加えた)

### ■果実によるツバキ科の検索表 ( ) 内に葉の特徴を付記。

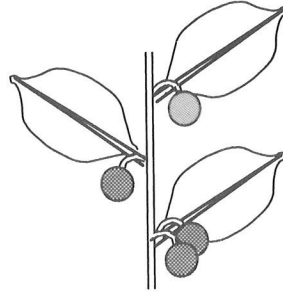
1. 果実は液果で黒熟する
  2. 果柄は長い (10~15mm) ……サカキ (常緑, 全縁)
  2. 果柄は短い (5mm未満) ……ヒサカキ (常緑, 鋸歯縁)  
ハマヒサカキ (常緑, 鋸歯縁)
1. 果実は裂開する
  2. 果実は不規則に裂開し, 果肉はパルプ質, 種子は赤色  
……モッコク (常緑, 全縁)
  2. 果実は5つに裂開する, 種子は茶色……ナツツバキ (落葉, 鋸歯縁)
  2. 果実は2または3に裂開する (ときに1裂), 種子は茶色~黒色
    3. 果柄は長さ1cmくらい……チャ (常緑, 鈍~波状鋸歯縁)
    3. 果柄はほとんどない
      4. 果実は無毛……ツバキ (常緑, 鋸歯縁)
      4. 果実は有毛 (若い果実で顕著) ……サザンカ (常緑, 鋸歯縁)

### ■葉によるツバキ科の検索表 ( ) 内に果実の特徴を付記。

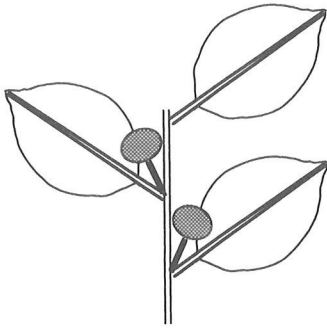
1. 落葉性……ナツツバキ (5裂するさく果)
1. 常緑性
  2. 葉は全縁
    3. 冬季の頂芽は長さ1~2cm, 葉は輪生状に配列しない  
……サカキ (液果, 種子は黒色)
    3. 冬季の頂芽は長さ5mm未満, 葉はやや輪生状に配列  
……モッコク (不規則に裂開, 種子は赤色)
  2. 葉は鋸歯縁
    3. 若枝には葉柄から流れる稜が多少ともある
      4. 葉の先は丸く, 葉縁は裏側に反り返る傾向が強い  
……ハマヒサカキ (液果)
      4. 葉の先はとがり, 葉縁は裏側に反り返らない……ヒサカキ (液果)
    3. 若枝には葉柄から流れる稜はなく断面はほぼ円形
      4. 鋸歯は大きく, 鈍鋸歯~波状鋸歯 (20pを参照)  
……チャ (2~3裂するさく果)
      4. 鋸歯は小さく, 波状になることはない
        5. 葉は長さ6cm以上……ツバキ (2~3裂するさく果)
        5. 葉は長さ6cm未満……サザンカ (2~3裂するさく果)



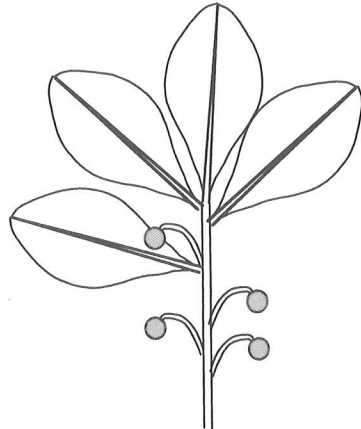
ツバキ, サザンカ



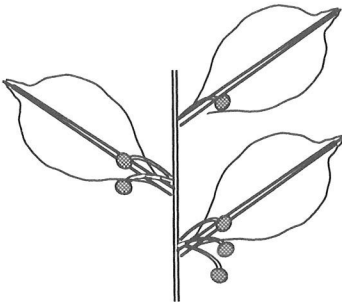
チャ



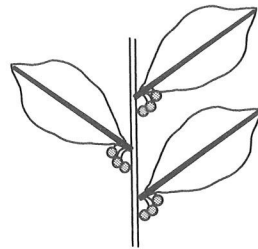
ナツツバキ



モッコク

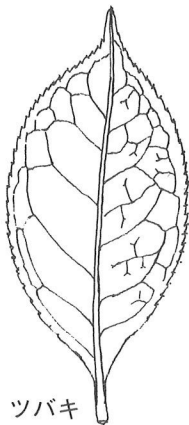


サカキ

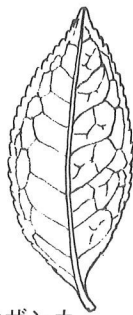


ヒサカキ, ハマヒサカキ

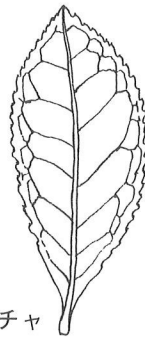
ツバキ科の果実のつき方 (模式図)



ツバキ



サザンカ



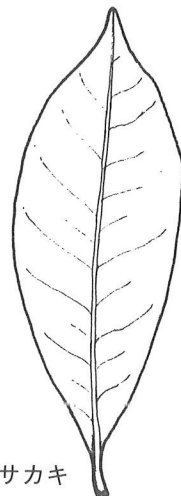
チャ



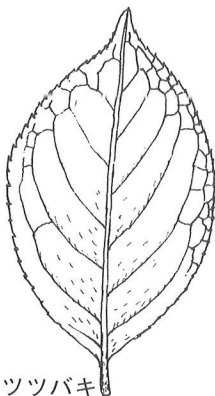
ハマヒサカキ



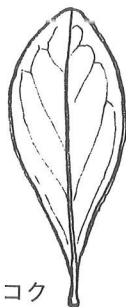
ヒサカキ



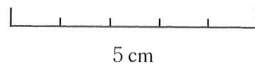
サカキ



ナツツバキ



モッコク



5 cm

### ツバキ科の葉

## ツバキ科

### ■ ツバキ科の植物

常緑樹と落葉樹の両方があり、果実形態はさく果や液果など多様。日本産種の大部分は常緑樹で、南西諸島に多くの種が分布する。

ツバキとサザンカは花が大型で美しいため、古くから多くの園芸品が作出された。また、サカキやヒサカキは、神事等に多用される。大阪の平野～低山地の社寺林では、植栽も含めて多くのツバキ科植物が生育する。この本では、大阪府に自生する7種（逸出のチャを含む）すべてと植栽のサザンカを紹介する。

### ■ 日本産ツバキ科の特徴

1) 花弁は5～多数, 2) 雄ずいは多数で基部は花弁に合着, 3) 花柱は1本(上部で離生することあり), 4) 子房は上位で2～5室, 5) 中軸胎座<sup>ないぎょ</sup>, 6) 花盤は発達しない, などの特徴を持つ。果実形態が多様なので、ツバキ科を認識するのはけっこう難しい。

### ■ ツバキ・サザンカと園芸種

常緑樹の中でもとくに大型で美しい花を持つツバキやサザンカ類では、古くから園芸的な品種の作出・改良が、多くの野生種の交雑によって行われてきた。以下に、園芸種やその原種をいくつか紹介する。

**ユチャ** *Camellia drupifera* Lour. (*C. oleifera* Abel.) : 中国南部・ベトナム・ラオス原産。採油のために栽培される。花は白色でサザンカに似るが、芽鱗片は有毛で、雄ずいは基部が合着して立ち上がる。子房には密毛がある。寒さに強いので、耐寒性の園芸品種育成に利用される。

**カンツバキ** (シシガシラ) *Camellia* × *hiemalis* Nakai : ツバキとサザンカの雑種と考えられているが、ツバキとユチャの雑種とする説や中国原産の別種とする説もある。花は赤～ピンク色。若枝・葉の中肋<sup>ちゅうりょく</sup>・子房に毛が多い。園芸品種「獅子頭」が代表的。

**トウツバキ** *Camellia reticulata* Lindley : 中国雲南省～サルウィン川流域が原産。ツバキに酷似するが、子房に密毛があり、花は大きく径9 cm以上。ツバキとともに園芸品種の作出に大きな役割を果たしている。日本でもときに栽培される。

**ハルサザンカ** *Camellia* × *vernalis* Makino : サザンカとツバキの雑種に起源すると推定されている。形態はサザンカとツバキの中間。

**ワビスケ** *Camellia* × *wabisuke* (Makino) Kitamura : ツバキとチャの雑種に由来するとの説があるが、片親はチャではなくて中国原産の別種であるとする考えもある。古くから茶花として利用されてきた。よく似たものにウラクツバキ(太郎冠者)があるが、ワビスケとの関係はよく分かっていない。

### ■ツバキ (ヤブツバキ) *Camellia japonica* L.

府下各地の低山地に生育する常緑小高木～高木。照葉樹林の重要な構成樹種。葉は革質で表面に光沢がある。野生のもののは赤色でやや下向きに咲く。花は多量の蜜を分泌し、メジロなどが吸蜜に来る。雄ずいの花糸は基部から2/3ほどが筒状に合生。子房は無毛、3室で各室に普通3個の胚珠がある。3個の胚珠すべてが成熟することもあるが、1個の胚珠のみが成熟する場合もある。子房室内で何個の胚珠が発達したかによって種子の形状が決まる。種子からはツバキ油を採る。ツバキ油は整髪用、灯用、食用、機械油用等に利用される。

北陸地方に分布するユキツバキ (subsp. *rusticana* (Honda) Kitamura) は多雪に適応したもので、枝は地表を這い、葉の網状脈が顕著で、雄ずいの筒部は短く橙黄色である。ユキツバキとヤブツバキとの分布が接する地域では、浸透交雑による変異に富む個体群が知られている。屋久島からは、果皮が肥厚して果実直径が6 cm以上にもなるリンゴツバキ (ヤクシマツバキ) (var. *macrocarpa* Masamune) が知られている。ツバキシギゾウムシ (表紙裏) はツバキ (広義) の種子を食害する昆虫だが、屋久島のツバキシギゾウムシの口吻は他地域産のものに比べて著しく長く発達しており、リンゴツバキの果皮の厚さとの共進化が示唆されている。近似種との区別：サザンカの花弁はバラバラに散り、子房 (若い果実) は有毛。ツバキの花弁は基部が合着したまま落下し、子房 (若い果実) は無毛。

### ■サザンカ *Camellia sasanqua* Thunb.

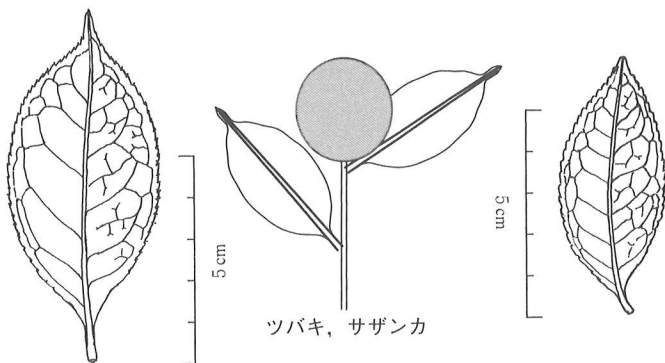
府下に自生はないが、寺院、庭園、公園などによく植栽される常緑の低木～小高木。刈り込みに強いので、生け垣やグリーンベルトにも多用される。自生は四国・九州南部など。野生のもののは白色だが、園芸品にはピンク色がある。雄ずいの花糸は基部のみ合生する。子房には密毛がある。園芸種については「ツバキ・サザンカと園芸種」の項 (5 p) を参照。近似種との区別：ヤブツバキの項を参照。

### ■チャ (チャノキ) *Camellia sinensis* (L.) O. Kuntze

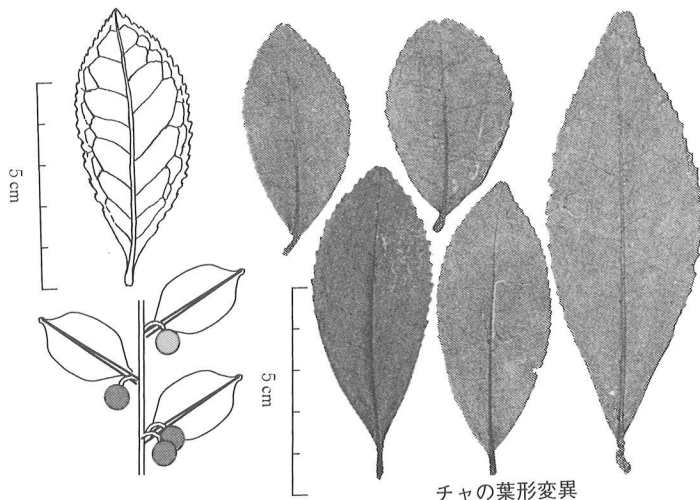
もともとは中国西南部～ベトナム・インド原産だが、日本でもよく栽培され、それらの逸出によって各地で野生化している。葉にはカフェインやタンニンが含まれ、茶の原料となる。葉の鋸歯は鈍頭でやや波状を呈する。花は白色で下向きに咲く。雄ずいの花糸は基部のみ合生する。子房には密毛がある。

チャにはアッサミカ (var. *assamica*) とシネンシス (var. *sinensis*) の2変種がある。アッサミカはタンニンが多くて酸化酵素の働きが強いので紅茶に、シネンシスはタンニンが少なく酸化酵素の働きが弱いので緑茶に利用される。日本で栽培されるのはシネンシスである。チャの製造過程で酸化酵素を作用させて発酵させると紅茶、発酵させなければ緑茶となる。ウーロン茶は半発酵させたもので、





ツバキ, サザンカ



チャの葉形変異

ツバキの葉（左上）、ツバキとサザンカの果実のつき方（上中）、  
サザンカの葉（上右）、チャの葉と果実のつき方（下）

紅茶と緑茶の中間的なもの。

近似種との区別：ツバキやサザンカには花柄はないが、チャには長さ約1 cmの花柄がある。

### チャの含有成分

チャの成分で重要なのは、カフェインとカテキンである。カフェインは、茶と並ぶ嗜好飲料のコーヒーにも含まれる成分で、興奮作用をもたらす。このため、疲労時の覚醒効果がある。カフェインの含有量は、コーヒーよりも緑茶の方が多いが、その効果は他の含有成分との関係でコーヒーの方が強い。タンニン系物質のカテキンは、茶葉の発酵過程における酸化重合反応によって紅褐色を呈する。これが紅茶の色である。緑茶はビタミンCを含有するが、紅茶では発酵過程で分解されてしまう。



ヒサカキ、ハマヒサカキ  
の果実のつき方

サカキの葉と果実のつき方（左の2点）、ヒサカキの葉（右・上左）、ハマヒサカキの葉（右・上右）、ヒサカキとハマヒサカキの果実のつき方（右・下）

■サカキ *Cleyera japonica* Thunb.

府下の低山地に生育する常緑小高木。神社によく植えられる。ヒサカキに比べてやや安定した照葉樹林環境を好むようだ。頂芽は長くて鎌状に曲がるのが特徴。この形質は、他種とのよい区別点になる。花は両性。

近似種との区別：ヒサカキとハマヒサカキの葉は鋸歯を持つが、サカキは全縁。

■ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb.

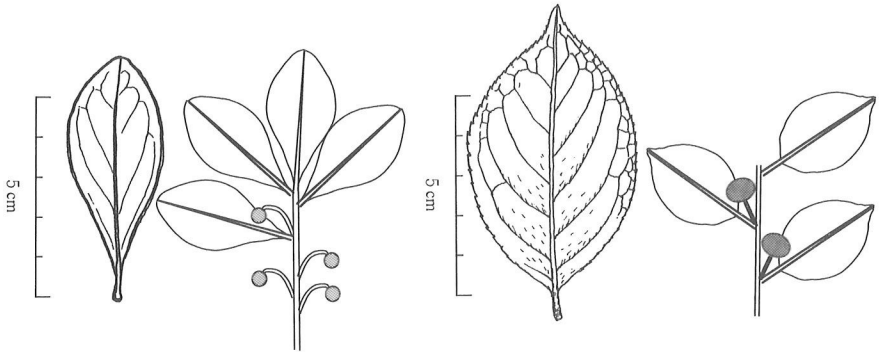
府下の低地にごく普通な常緑低木。照葉樹林だけでなく、伐採後の二次林にもよく生育する。関西ではビシャシャキと呼ばれる。雌雄異株だが、中間的な株もみられる。庭木として利用され、斑入りの園芸品種が知られている。

近似種との区別：ハマヒサカキは葉が倒卵形で先が丸く、葉縁は裏側へ反り返る。ヒサカキは葉が楕円形で先がとがり、葉縁は反り返らない。

■ハマヒサカキ *Eurya emerginata* (Thunb.) Makino

府下では岬町およびその周辺の海岸部に生育する常緑低木。岩場では匍匐状になることもある。雌雄異株。葉縁が裏側へ反り返るのが特徴。花は冬に咲くが、匂いは都市ガス臭のような独特の香りのため、住宅地近くで多量に開花するとガス漏れと間違われることもある。庭木や生け垣として利用される。

近似種との区別：ヒサカキの項を参照。



モッコクの葉と果実のつき方（左）、ナツツバキの葉と果実のつき方（右）

■モッコク *Ternstroemia gymnanthera* (Wright et Arn.) Beddome

常緑高木。剪定をしなくても美しい樹形を保つので、しばしば社寺や庭園に植栽される。雌雄雑居（雌雄異株？）。府下では本山寺、泉佐野市岡本、岬町上孝子から記録されているが、本来の自生かどうかよくわからない。

厚い革質の葉が特徴で、葉柄の基部はしばしば赤みを帯びる。葉は枝先に集まってやや輪生状につく。花は葉腋および枝の下部につく。果実は水分の少ないパルプ質で、成熟すると不規則に裂開する。ツバキのような小さく果とヒサカキのような液果の中間的な性質を持つといえる。種子は赤色でよく目立つ。

近似種との区別：葉はシキミに似るが、シキミのような独特の香気はない。また、シキミの果実は袋果が扁平な星形に集合したもので、各袋果が裂開して種子を放出する。一方、モッコクの果実は球形で不規則に裂開して種子を露出する。

■ナツツバキ（シャラノキ） *Stewartia pseudocamellia* Maxim.

府下の山地（妙見山、生駒山地、大和葛城山など）に稀に生育する落葉高木。寺院にも植えられる。若葉の裏に長い圧毛があるが、のちやや無毛になる。芽鱗は2列互生する。樹皮がはげやすいため、幹はすべすべした独特の肌になる。6月頃に白色の大きな花を咲かせるが、目立たない。シャラノキの由来は「沙羅の木」に見たてたものだが、本物はフタバガキ科の *Shorea robusta* Gaertn f. である。近似種との区別：ヒメシャラ *Stewartia monadelphica* Siebold et Zucc. は、葉が小さくて無毛、花の直径は4 cm以下。ナツツバキは葉が大きくて葉裏に長圧毛があり、花の直径は5 cm以上。なお、ヒメシャラは府下には自生しない。

表1. ツバキ科の形質一覧

	雌雄性	生状	花の色	花序	花序のつき方	果柄	果実の色
ツバキ	両性	小高木～ 高木	赤	単生	頂生状	無柄	緑褐色，赤みを帯びることがある
サザンカ	両性	小高木	白色	単生	頂生状	ほぼ無柄	緑褐色
チャ	両性	低木	白色	単生～複数	頂生状または 葉に腋生	有柄（7～14mm）	緑褐色
サカキ	両性	小高木	白色	束生状	葉に腋生	有柄（10～15mm）	黒色
ヒサカキ	雌雄異株	低木	黄白色	束生状	葉に腋生	有柄（2～4mm）	黒色
ハマヒサカキ	雌雄異株	低木	黄白色	束生状	葉に腋生	有柄（2～3mm）	黒色
モッコク	雑居，雌雄 異株？	高木	淡黄白色	単生	鱗片に腋生	有柄（10～20mm）	赤錆色
ナツツバキ	両性	高木	白色	単生	葉に腋生	有柄（17～32mm）	褐色
ヒメシャラ	両性	高木	白色	単生	葉に腋生	有柄（10～20mm）	褐色

表2. ヤブコウジ科の形質一覧

	雌雄性	生状	花の色	花序	花序のつき方	小花柄	果実の色	果実
イズセンリョウ	雌雄異株	低木	黄白色	総状～円錐状	腋生	2～3mm	汚白色	液果
ヤブコウジ	両性花	小低木	白色～淡ピンク	散形状	腋生	6～8mm	赤色	液果
ツルコウジ	両性花	小低木	白色	散形状	腋生	7～12mm	赤色	液果
タイミンタチバナ	雌雄異株	低～高木	内面緑白色， 外面帯赤色	束生状	腋生	2～4mm	黒紫色	液果
マンリョウ	両性花	小低木	白色	散形～散房状	側枝（花序枝） に頂生	10～15mm	赤色	液果
カラタチバナ	両性花	小低木	白色	散形状	側枝（花序枝） に頂生	10mm前後	赤色	液果

果実	落葉・常緑	葉のつき方	葉の質	葉の鋸齒	葉形	葉身長	利用
さく果, 3裂	常緑	互生	革質	腺端鋸齒縁	長楕円形～広長楕円形, 鋭尖頭	6～12cm	観賞, 庭木, 採油
さく果, 3裂	常緑	互生	革質	腺端鋸齒縁	長楕円形	3.5～4.5cm	観賞, 庭木
さく果, 1～3裂	常緑	互生	薄い革質	鈍～波状の腺端鋸齒縁	長楕円形	5～7cm	茶の原料
液果	常緑	互生	革質	全縁	長楕円形	7～12cm	神前・墓前に供する, 庭木
液果	常緑	互生	革質	腺端鈍鋸齒縁	長楕円形～楕円形～狭倒卵形	3～7cm	墓前・神前に供する, 庭木
液果	常緑	互生	革質	腺端低鈍鋸齒縁	長倒卵形	2～4cm	庭木, 生垣
バルブ質, 不規則に裂開	常緑	互生, 輪生状	厚い革質	全縁	倒卵状長楕円形	4～7cm	庭木
さく果, 5裂	落葉	互生	洋皮質	低鋸齒縁, 微凸端	楕円形～長楕円形	6～12cm	時に寺院や庭園に植栽される
さく果, 5裂	落葉	互生	洋皮質	鋸齒縁	卵形～楕円形	4～8cm	

落葉・常緑	葉のつき方	葉の鋸齒	葉の特徴	葉形	葉身長	側脈	利用
常緑	互生	全縁～低鋸齒縁	無毛～軟毛を散生, 表面は光沢を持つ	長楕円形～楕円形	5～17cm	5～8対	
常緑	互生, 輪生状	細鋸齒縁	若葉は粉状毛を持つが, 後に無毛	長楕円形～狭楕円形	3～13cm	5～8対	観賞目的に栽培
常緑	互生, 輪生状	あらい鋸齒縁	長軟毛を有する	卵形～卵状楕円形	2～6cm	7対前後	
常緑	互生	全縁	無毛	狭倒卵形～線状長楕円形	5～19cm	不明瞭	
常緑	互生	波状鋸齒縁	葉縁に腺体	長楕円形	7～15cm	8～18対	観賞目的に栽培
常緑	互生, 枝の上部につく	低い波状鋸齒縁	葉縁に腺体, 表面に光沢あり	狭卵形～長被針形	8～20cm	8対前後	江戸時代に観賞目的によく栽培された

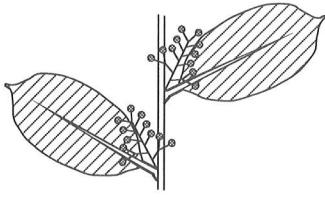
## ヤブコウジ科の検索表 (大阪府産のものに限る)

### ■果実によるヤブコウジ科の検索表 ( ) 内に葉の特徴を付記.

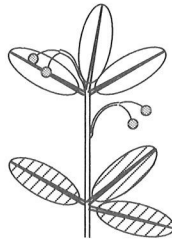
1. 果実は黒紫色……タイミンタチバナ (全縁, 側脈は不明瞭)
1. 果実は汚白色……イズセンリョウ (全縁~低鋸齒縁, 側脈は明瞭)
1. 果実は赤色 (鋸齒縁, 側脈は明瞭)
  2. 果実は長い花序枝 (長さ5 cm以上) の先端に5個以上つく
    3. 花序は前年に伸びた側枝 (花序枝) の先端につく  
……マンリョウ (鋸齒は波状, 葉縁に腺体を持つ)
    3. 花序は当年の側枝 (花序枝) の先端につく  
……カラタチバナ (鋸齒は波状, 葉縁に腺体を持つ)
  2. 果実は短い花序柄 (長さ3 cm以下) の先に数個つく
    3. 花序柄には粉状の微毛のみがある  
……ヤブコウジ (鋸齒はこまかい, 網状脈は明瞭)
    3. 花序柄には粉状の微毛と長軟毛がある  
……ツルコウジ (鋸齒はあらい, 網状脈は不明瞭)

### ■葉によるヤブコウジ科の検索表 ( ) 内に果実の特徴を付記.

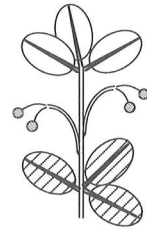
1. 葉は全縁
  2. 側脈は不明瞭……タイミンタチバナ (赤色, 葉腋に東生)
  2. 側脈は明瞭で5~6対……イズセンリョウ (汚白色, 1果序に多数)
1. 葉は鋸齒縁
  2. 葉の鋸齒は波状で丸く, 葉縁に腺体 (20 pを参照) がある
    3. 葉は狭卵形~長針形で細長く, 長さは幅の3倍以上  
……カラタチバナ (赤色, 1果序に多数)
    3. 葉は長楕円形~長卵形で幅広く, 長さは幅の3倍未満  
……マンリョウ (赤色, 1果序に多数)
  2. 葉の鋸齒はとがる, 葉縁に腺体がない
    3. 成葉は全体に長軟毛を有する  
……ツルコウジ (赤色, 1果序に数個)
    3. 成葉は無毛か脈上に微毛またはわずかな軟毛を有する
      4. 葉の鋸齒は明瞭で細かい  
……ヤブコウジ (赤色, 1花序に数個)
      4. 葉の鋸齒は低くてまばら  
……イズセンリョウ (汚白色, 1花序に多数)



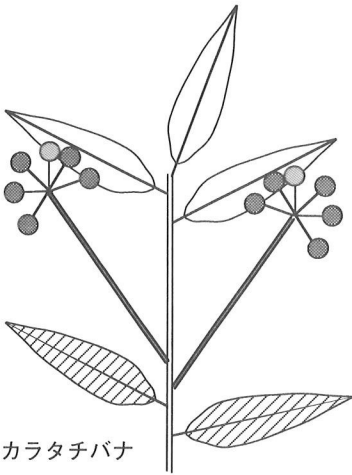
イズセンリョウ



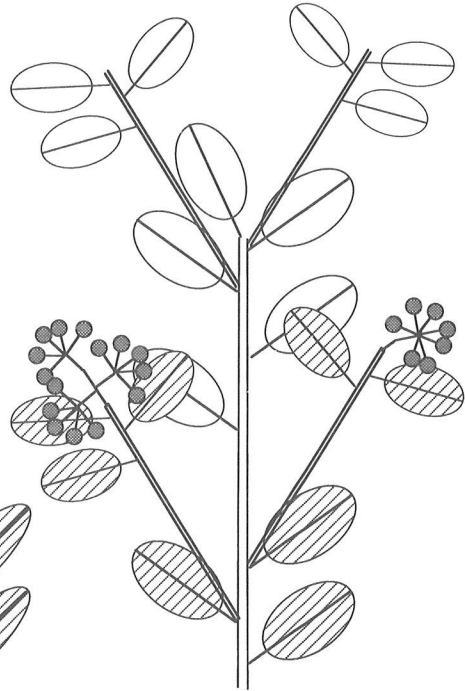
ヤブコウジ



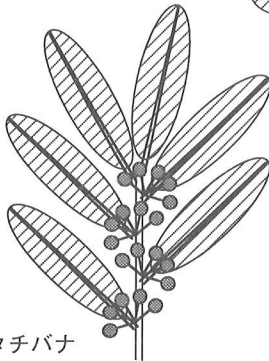
ツルコウジ



カラタチバナ

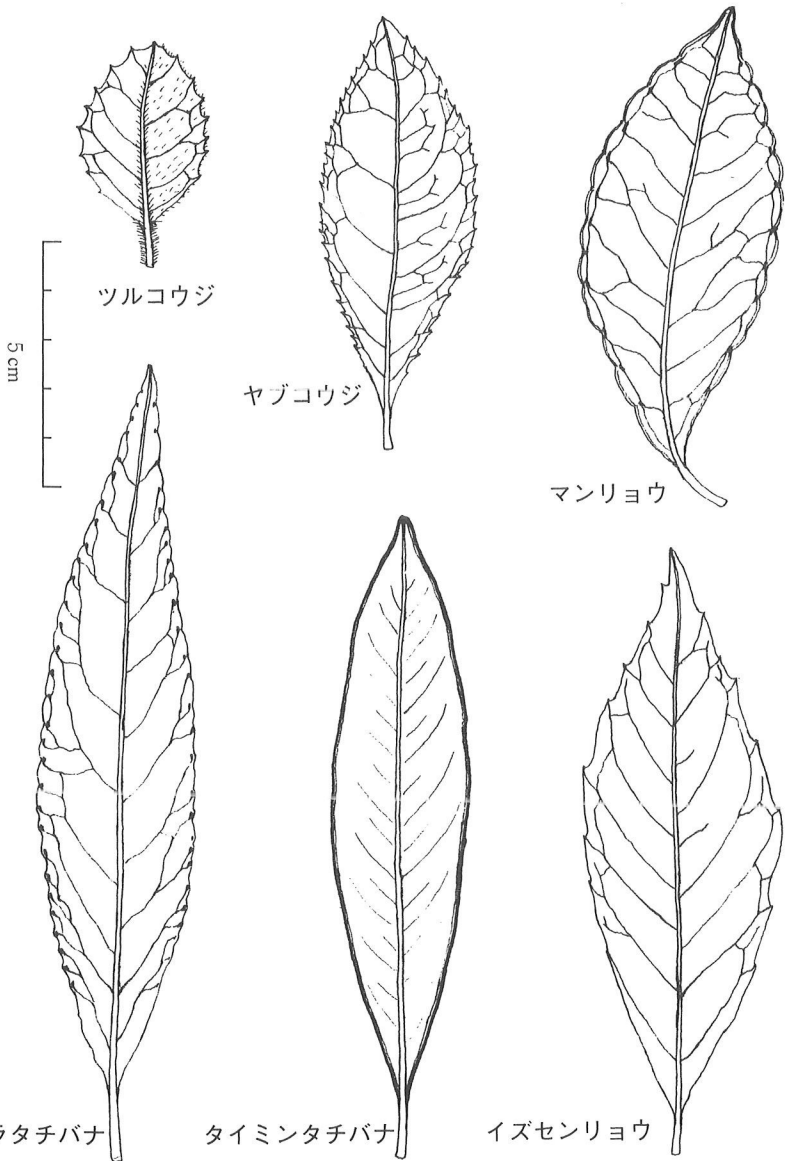


マンリョウ



タイミンタチバナ

ヤブコウジ科の果実のつき方 (模式図)  
斜線部は前年に展開した葉 (落葉していることもある)



ヤブコウジ科の葉



## ヤブコウジ科

### ■ヤブコウジ科の植物

ヤブコウジのような草本状の小低木からタイミンタチバナのような高木になる種類、さらに熱帯にはマングローブ植物が知られるなど、さまざまな生状がある。果実はふつう液果で、色彩は白・黒・赤など多様。ヤブコウジやマンリョウは果実が美しいので庭園などによく植栽される。江戸時代には、カラタチバナとともに多くの園芸品種が作出されたという。

世界の熱帯～暖帯に分布し、日本では南西諸島に多くの種類が生育する。大阪府では、南部の海岸・丘陵・山地によくみられる。この本では、大阪府産6種のすべてを紹介する。

### ■日本産ヤブコウジ科の特徴

1) 萼<sup>がく</sup>と葉に腺点を持つ(稀にない種がある)、2) 花は5数性が基本、3) 花冠裂片と雄ずいは対生し、雄ずい基部と花冠はゆ合、4) 雌ずいは1個、5) 子房は1室(子房壁は複数の心皮からなる)、6) 胎座<sup>たいざ</sup>は中央独立胎座(または基底胎座)。とくに2～6は重要な形質だが、それらの理解には花形態の観察が必要。花冠裂片と雄ずいが対生することと中央独立胎座は、木本植物の中では特異な特徴である。果実中の種子はふつう1個だが、イズセンリョウ属では多数ある。このため、イズセンリョウ属は単独でイズセンリョウ亜科を形成する。

### BOX もっと詳しく調べるには

もっと詳しく調べたい方には、以下の図鑑をおすすめします。いずれも検索表が完備された図鑑です。内容や値段を考えると、それぞれに一長一短があるので、いちがいにどれがよいとは言えません。ちなみに、値段を度外視すれば、カラー写真の充実した「日本の野生植物」がおすすめです。

尼川大録・長田武正著。検索入門樹木(全2巻)。保育社。

葉による同定に特化した検索図鑑。1冊1,600円前後と廉価。

北村四郎・村田源著。原色日本植物図鑑木本編(全2巻)。保育社。

彩色画がコンパクトにまとめられ、各種の特徴をつかみやすい。1冊5,000円前後。

佐竹義輔他編。日本の野生植物木本(全2巻)。平凡社。

美しいカラー写真が掲載されているので、各植物のイメージを膨らませることができる。1冊2万円近くするので購入には勇気がいるが、日本産樹木のカラー写真がこれだけ揃っている図鑑は他にない。



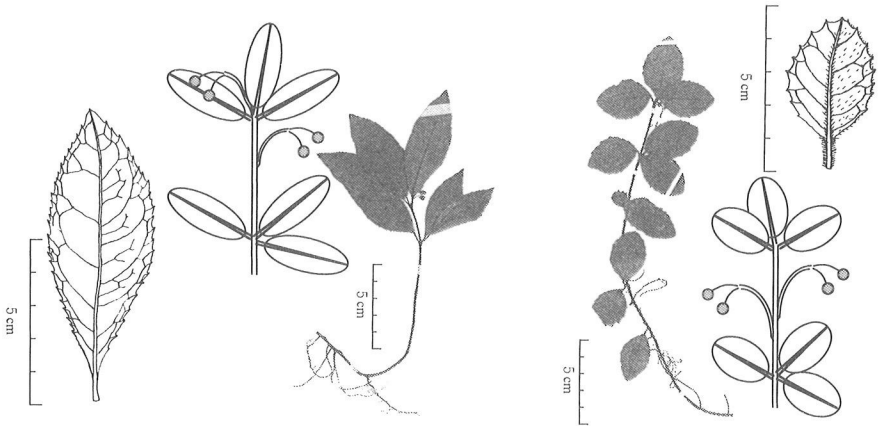
イズセンリョウの葉と果実のつき方(左)、タイミンタチバナの果実のつき方と葉(右)

■イズセンリョウ *Maesa japonica* (Thunb.) Moritzi

府下では、南部の低山地にみられるが、北部にも稀に産する。照葉樹林の林床に生育する高さ1 m前後の常緑低木で、ときにややツル状になる。雌雄異株。葉はまばらな低鋸歯縁～全縁、長さ5～17cm、側脈は5～8対。総状～円錐状の花序が腋生する。花冠は筒状の鐘形で、黄白色。萼筒は宿存し、果実の大部分を包む。果実は汚白色で、褐色の縦条(腺条)がある。果実は多数の種子を持つが、この特徴はヤブコウジ科の中ではイズセンリョウ属特有のものである。シカの不嗜好植物で、奈良の春日山周辺ではアセビとともに本種の繁茂がみられる。近似種との区別：花冠が鐘型であることや果実が汚白色で萼筒に包まれるのは、大阪府産のヤブコウジ科では本種のみ。なお、九州以南にはシマイズセンリョウ(*Maesa tenera* Mez)が分布する。イズセンリョウの花冠筒状部は長くて鐘形だが、シマイズセンリョウは筒部が短くて碗状。

■タイミンタチバナ *Myrsine seguini* Lév. (*Rapanaea neriifolia* (Siebold et Zucc.) Mez)

府下南部の海岸および山地に生育する常緑の低木～高木。雌雄異株。葉は狭倒卵形～長楕円形で全縁、側脈は不明瞭。葉の長さ5～19cm。花は前年の葉腋に束生する。小花柄は長さ2～4 mm。花冠内面は緑黄色で、外面は赤色を帯びる。花冠裂片と萼裂片の縁には微毛が密生する。雄ずいまたは仮雄ずいは花冠裂片の中程につく。果実は黒紫色に熟し、中に1個の種子を含む。近似種との区別：果実が黒紫色なのは、大阪府産ヤブコウジ科では本種のみ。



ヤブコウジの葉・果実のつき方・全形 (左),  
ツルコウジの全形・果実のつき方・葉 (右)

■ヤブコウジ *Ardisia japonica* (Thunb.) Blume

府下の山野に普通な草本状の常緑小低木。地中に長い匍匐枝を出す。地上枝は、横走る匍匐枝から屈曲または斜上して立ち上がり、葉は地上枝に輪生状に数輪がつく。葉縁には細かい鋸歯がある。若い葉や枝は微小な粉状毛を持つが、のちにほとんど無毛となる。葉の網状脈は両面とも顕著で、側脈は5～8対。葉は長さ3～13cmと変異が大きい。花序柄は1～1.5cm、小花柄は6～8mmだが果実期には伸長する。1花序に2～5花を散形状につける。花は両性で、白色～淡ピンク。花冠に腺点がある。果実は赤熟する。果実が白色のものにシロミヤブコウジ (forma *albifructa* (Hara) Sugimoto) とシラタマコウジ (var. *angusta* (Nakai) Makino forma *leucocarpa* (Nakai) Sugimoto) がある。江戸時代に多数の斑入り園芸品種が作出されている。和名は「藪に生える柑子 (ミカン類)」の意。

近似種との区別：ツルコウジとは、枝や葉に長軟毛がないこと、葉縁の鋸歯が細かく多数あること、網状脈が細かくて明瞭なこと、などで区別できる。

■ツルコウジ *Ardisia pusilla* DC.

府下南部の丘陵や低山地に稀に生育する草本状の常緑小低木。長い匍匐枝で地表面あるいは地中を這う。葉は、匍匐枝のところどころと地上枝に輪生状につく。枝には長軟毛が密生し、葉の両面にも毛が多い。葉縁にはあらい鋸歯があり、葉柄は長軟毛がある。側脈は7対前後。葉の長さは2～6cm。花序柄は2～3cm、小花柄は7～12mm、1花序に2～4花を散形状につける。花は両性で、白色。花冠に腺点がある。萼裂片外面には軟毛と腺点を有する。果実は赤熟する。

近似種との区別：ヤブコウジの項を参照。



マンリョウの葉形変異

### マンリョウの葉と果実のつき方

#### ■マンリョウ *Ardisia crenata* Sims

府下では南部の丘陵や低山地に稀に生育するが、果実の観賞目的でよく植栽されるので、逸出もあると思われる。高さ1m未満の常緑小低木。全体無毛。葉は鈍頭の波状鋸歯縁で、鋸歯の歯牙間に腺体（大形の腺組織）がある。葉には小さな明点と黒褐色点があり、長さ7～15cm。側脈は細くて表面は不明瞭で8～18対。直立する茎の上部で側枝を出す。前年に伸びた側枝（花序枝）の先端に、散形～散房状の花序を頂生する。花序枝は、果実期には落葉していることが多く、しばしば花序を含む側枝全体が無葉状態になる。小花柄は長さ1～1.5cm。花は両性で、白色。花冠裂片内面に粉状毛を有する。花冠裂片、萼、子房には明瞭な腺点がある。果実は赤熟する。果実が黄熟するものをキミノマンリョウ（forma *xanthocarpa* (Nakai) Ohashi)、白熟するものをシロミノマンリョウ（forma *leucocarpa* (Nakai) Ohashi）と呼ぶ。果実の美しさと「万両」という名の縁起のよさから、和式庭園等で好んで植えられる。北米のフロリダでは、帰化植物として猛威をふるっており、1平方メートルに100個体以上が繁茂して森林の更新を妨げているという。

近似種との区別：カラタチバナとは、前年側枝に花序がつくこと、葉の鋸歯が明瞭な波状であること、葉が楕円形～長楕円形であることで見分ける。

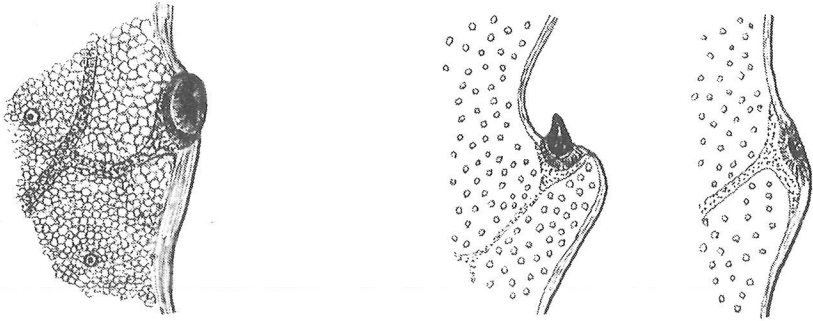


カラタチバナの葉・果実のつき方・全形

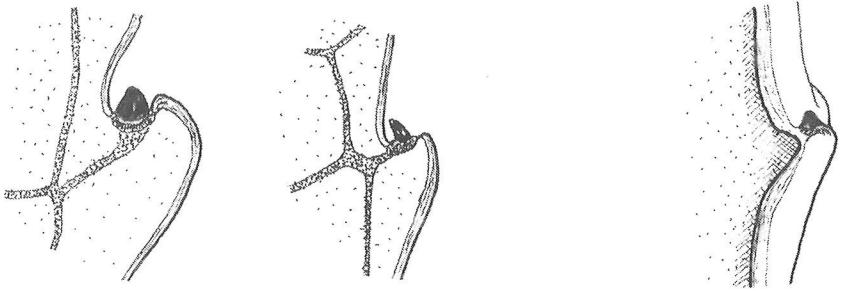
■カラタチバナ *Ardisia crispa* (Thunb.) DC.

府下南部の丘陵や低山地に稀に生育する高さ 1 m 未満の常緑小低木。地下に匍匐枝を持つ。葉は表面に光沢があり、低い波状鋸歯縁で、鋸歯の歯牙間に腺体（大形の腺組織）がある。側脈は 8 対前後。葉の長さ 8 ~ 20 cm。上部の葉腋から側枝（花序枝）を伸ばし、先端に 5 ~ 10 花を散形状につける。花序枝は無葉かまたは小さな葉を持つ。花は両性で、白色。花冠裂片内面に粉状毛を有する。子房と萼裂片に腺点があるほか、花冠裂片にもわずかにある。小花柄は微毛を有し、長さ 10 mm 前後。果実は赤熟する。江戸時代には多くの園芸品種が作出された。近似種との区別：マンリョウとは、当年側枝に花序がつくこと（13 p を参照）、葉の鋸歯が低くて不明瞭な波状であること、葉が長くて狭楕円～長卵形であることで見分ける。

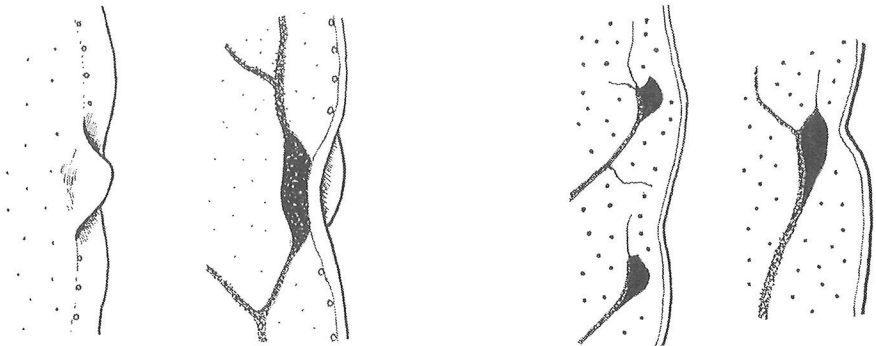
きよし せんたい  
 鋸歯と腺体のいろいろ



葉裏よりみたタバキの鋸歯（左）とチャの鋸歯（右の2点）。



葉裏よりみたヒサカキの鋸歯（左の2点）とハマヒサカキの鋸歯（右）。  
 ハマヒサカキの葉縁は、裏側に反り返るのが特徴。



マンリョウの腺体（左の2点）。葉表よりみた腺体（左）と葉裏よりみた腺体（右）。  
 腺体は表面に強く隆起する。カラタチバナの葉裏からみた腺体（右の2点）。  
 左は葉身上部，右は葉身基部近く。



ツバキの果実に産卵中のツバキシギゾウムシ（高知県室戸岬で撮影）。  
シギゾウムシは、産卵に先立って、口吻を用いて果皮に孔を開ける。孔が果実内の種子に達すると口吻を抜き、腹端の産卵管を孔に入れて産卵する。

ミニガイドNo. 20 大阪の樹木2  
—社寺林の木—ツバキ科・ヤブコウジ科

藤井伸二 編著

株式会社 中島弘文堂印刷所 印刷

2003年3月31日発行

©大阪市立自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

電話：06-6697-6221 (代)

